

令和元年度「学校安全総合支援事業」に係る防災教育公開授業指導案

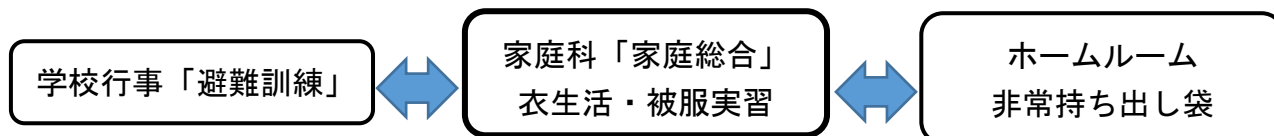
日時 11月15日(金)

5限目(13:50~14:40)

実施クラス 2年6組

授業者 家庭科職員 防災主任

- 1 題材名 「ふろしきの活用法」
- 2 カリキュラム・マネジメントの視点



- 3 時間 1時間
- 4 ねらい ふろしきの特性を理解し、災害時を含む様々な状況で活用しようとする意識や態度を身に付けることができる。
- 5 準備物等 自作ふろしき、ワークシート、説明用シート、プレゼンスライド資料
- 6 展開

	学習内容 発問等	教師の支援 指導ポイント
導入 5分	<ol style="list-style-type: none"> 1 心のケアを受ける。 この後、熊本地震を振り返りますが、災害や地震という言葉自体は安全です。安心して授業を受けてください。ドキドキすることがあっても、それは自然なことです。ただ、我慢できなくなったら、遠慮なく知らせてください。 2 熊本地震を振り返る。 (1) 資料から振り返る。 (2) 自助、共助、公助の必要性について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の心身の状態に十分配慮する。 ○プレゼンスライド資料を準備する。 ○自助、共助、公助の視点を示す。
展開 40分	<ol style="list-style-type: none"> 3 災害時における自作ふろしきの活用方法について考える。 (1) ふろしきの歴史やふろしきの使い方を振り返る。 (2) 5つのパターンを各班の代表生徒が順番に実践していく (ア) 身を守り逃げる時 (イ) 物や人を運ぶ時 (ウ) ケガや病気の時 (エ) 避難所で生活をする時 (オ) ストレスを回避する時 (3) 以下のことを班で話し合う ① 分かりやすく伝える方法 ② ふろしき以外でも災害時に活用できるもの ③ ふろしき防災を地域に広めるのは (4) 代表者が発表 	<ul style="list-style-type: none"> ○前回到授業を振り返る。 ○5つのパターンを挙げさせる。 ○ワークシート(A4)を用意し配付する。 ○実践を行う前に、ルールを確認させる。 ・協力しながら進めること ・全員が実践すること ・1つの実践を5分で行うこと ○スムーズに体験できない生徒には支援する。 ○ふろしきの活用法については、共助の視点で整理できるように支援する。

	<p>4 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふろしきの特性から生活の場面だけでなく災害時にも活用できる。 ・ふろしき以外にも身近なもので災害時に活用できるものがある。 ・災害への事前の備え（備蓄）として、ふろしきの有用性を地域に発信する。 <p>5 心のケアを受ける。</p> <p>授業では、熊本地震を振り返り、災害への備えについて考えました。熊本地震で受けた辛いことを思い出して不安になったかもしれません。でもそれは、自然な体の反応です。こころがざわざわした人は、友達や先生に相談してください</p> <p>6 次回学習について説明する。</p>	<p>○いくつかの班で話し合っていた内容に触れる。またどのような意見からどのように活動したのかについても触れる。</p> <p>○生徒の心身の状態に十分配慮する。</p> <p>○非常持ち出し袋について説明する。</p>
--	---	--

※学校防災教育指導の手引を参考に作成。

今日の目標：避難者・被災者の視点に立った学習を通して、日頃から防災に関心を持っておくことの重要性に気づくとともに、地域社会に貢献しようとする態度を身に付け、自ら行動することができる。
 「自助」、「共助」のため連携や周りの人を助けることができる。

1 ふろしきの使い方を班員に分かりやすく伝えて、良かったところや改善できそうな点を考えてみよう。(自助・共助)

	①	②	③	④	⑤
説明者の名前					

		良かったところ	工夫出来るところ (工夫したところ)	ふろしきがない 場合の代用品
① 身を守り 逃げる時	ずきん マスク 簡易シューズ など			
② 物や人を 運ぶ時	担架 赤ちゃんだっこ リュック など			
③ ケガや 病気の時	三角巾 手足の包帯 副え木の包帯 など			
④ 避難所で 生活をす る時	枕 寒さしのぎ おむつ など			
⑤ ストレス 回避する 時	ゆりかご エプロン バッグ など			

2 授業で学んだ防災の知識をあなたの住んでいる地域の人や地域の小・中学校の生徒に伝える方法を考えてみよう。(共助)

3 まとめ